

H27年度 研究構想図

今日的課題・本校の教育課題・ 教師の願い

- ・多様な価値をもつ人との関わりにおいて、思いや考えを豊かに伝え合えること
- ・自分の役割をもち人のために行動できること

学校教育目標

- ・ じょうぶな子ども
- 助け合う子ども
- 考える子ども
- ・ やりぬく子ども

児童の実態

- 友達と仲良くしたい思いが強い。
- 素直でひととのふれあいを好む。
- 自分の思いを言葉で表すのが苦手。
- 多様な関わり方を知らない。

研究主題

自己を見つめ、他者を理解できる児童の育成

～ 言語活動を通して ～

研究仮説

言語活動の充実を図り、児童一人一人が自己肯定感をもってお互いに人と関われるような活動の工夫と場の設定をした授業を創造すれば、自己理解・他者理解をする力が高まるであろう。

目指す児童像

高学年：自分や相手の立場・考えを認め、進んで他者にはたらきかける児童
中学年：自分や他者のよさを認め人とかかわろうとする児童
低学年：自分が好き、人と関わるのが好きと思える児童

身に付けさせたい力

- ・ 自己を見つめ、自己肯定感をもって人と接する力
- ・ 関わりを通じて自分の考えを更新する力
- ・ 相手を尊重し、生き生きと関わり合う力
- ・ もっと関わりたいという気持ちで自ら相手にはたらきかける力

主題に迫るための手だて

- 1 授業づくり
 - ・ 関わり方・コミュニケーションのモデルを示す（話型、聞き方、顔つきや相づち等の反応、挨拶等）
 - ・ ペアや小グループ活動
 - ・ 振り返りのワークシート（自己変容を促す記述）
 - 2 環境整備
 - ・ ふれあい掲示板や今月の詩の掲示・校内での挨拶指導
 - 3 特活・交流活動（授業以外の時間）を活用した SST
 - ・ 縦割り班、幼小交流、高齢者交流、国際交流
 - ・ 道徳、ハートフルデーの時間活用
- （→自己有用感を高める、認め合う体験を取り入れる）

研究内容

- ・ 主題に即した単元構想の在り方と多教科・領域における授業実践
- ・ 言語活動の工夫と実施 ・ 常時活動の工夫と実施
- ・ 児童の変容をとらえるアンケートの実施 ・ 教師同士の学び合いのある協議会、プレゼンテーション

1 研究主題

自己を見つめ、他者を理解できる児童の育成

～言語活動を通して～

2 主題設定の理由

学校教育の目指す理念は、児童に「生きる力」をはぐくむことである。生きる力とは、知・徳・体のバランスのとれた力であり、「確かな学力」と「豊かな心」と「健やかな体」の3つの要素が調和した力である。21世紀を生きる子どもたちの教育の充実のためには、決して忘れてはならない理念である。また、急速なグローバル化社会を生き抜くために必要な、多様な価値観の中で相手を理解し、自分を表現することのできるコミュニケーションの力は実生活において強く求められるようになっている。

一方で、現在の子どもたちの課題として、他者と関わり協同して活動に取り組むための「自己を見つめる力」と「他者を理解しようとする力」に対する弱さがある。本校の子どもの実態から見ても、日常的な学校生活や学習活動をする際に、学級集団における自分自身の立ち位置や友達と協同的に関わるためのコミュニケーション力に課題があると感じている教員は多い。自分の思いを相手にうまく伝えられないことや、相手の気持ち・立場などを理解して関わろうとすることが苦手なことから学校内での活動がうまくいかないことや友達同士の衝突などが生じている。

これらの課題を踏まえ、私たち教師の願いとして自分も友達も大切にし、認め合って行動する児童を育てたいという思いが共通していることが分かった。また、人とのかかわるためには、気持ちの言い表し方や相手の気持ちを受け取ることや合意形成をするといった、話し合う力、伝え合う力を育てることが大切である。こうした活動は言葉の力なしには考えることができない。そこで、副主題を「言語活動を通して」とし、本年度は人とのかかわり合いを促すために「言葉」を用いる学習活動を中心に授業づくりを行うこととした。

この他に「みんなであそぼう」など、日常的なかかわり合いをもつ場としての常時活動も設定し、学校生活全般を通じて異学年や学年の交流を促すことも同時に行うこととした。

以上、生きる力の理念、児童の課題、求められる言葉の力と言語活動について考え、本主題を設定した。